



快晴、晴れ、くもりはどのように区別するの

雲量によって決める

空をながめていると、空にまったく雲がないときがありますし、空一面が雲でおおわれているときもあります。

空全体が、どれくらいの雲でおおわれているかを、数字で表したものを、雲量といいます。雲量は、空全体を10として、空をしめている雲の量を合計して、その割合を示したものです。

たとえば、雲が空全体の70パーセントをしめていれば、雲量7、また、5パーセントに満たないときは、雲量0です。

雲量が0と1のときは快晴、2～8のときは晴れ、9と10のときはくもりです。

雲量が9以上でも「うすくもり」

雲には、巻雲（すじ雲）、乱層雲（雨雲、雪雲）、積乱雲（かみなり雲、入道雲）などいろいろな種類があって、雲がある高さもちがいます。

雲量が9以上でも、巻層雲（うす雲）のように、高い空にあるうすい雲のときは、「うすくもり」といいます。巻層雲が出て太陽や月が、かさをかぶったようになったときは、次の日が雨になることが多いといわれています。

なお、雲量が少なくても雨や雪が降れば、天気は雨または、雪になります。

（監修・村山 貢司）

